

WXBC 第 12 回運営委員会 議事概要

日時	令和元年 6 月 19 日(水) 13 : 00~15 : 00
場所	気象庁 5 階 大会議室
出席者	16 名出席 (1 名代理)

<p>1. 承認事項</p> <p>議題 1. 運営委員の変更</p> <p>議題 3. 関係機関と連携したイベントについて (「気候変動・災害対策 Biz」)</p> <p>議題 6. 気象データアナリスト (仮称) の育成・確保に向けて</p>
<p>2. 報告事項 (議題 2 ~ 5)</p> <p>議題 2. 第 4 回 WXBC 総会、気象ビジネスフォーラムについて</p> <p>議題 3. 関係機関と連携したイベントについて(その他)</p> <p>議題 4. WG 等の活動報告</p> <p>議題 5. 気象過去データの利用環境について</p>
<p><主な意見、補足事項></p> <p>議題 2. 第 4 回 WXBC 総会、気象ビジネスフォーラムについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 総会、ビジネスフォーラムの内容の組み直しも念頭に、総会の集客・活性化について今後検討 ➢ 展示ブースの広報動画 (各ブース 3 分程度) を作り今後の集客につなげる工夫もある。 <p>議題 5. 気象過去データの利用環境について</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 過去データの再配布は可能。アンケート等にご協力いただくため、利用登録していただく。 ➢ 他のクラウド事業者との連携も検討すべき。 <p>議題 6. 気象データアナリスト (仮称) の育成・確保に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 研修や試験を先に考えがちだが、正体と人数について先に考えるべき。どこまでのスキルを持っていて、どれぐらいの人数がいるのか。 ➢ 気象予報士が IT 力を付ける、IT の専門家が気象データの意味を理解する、課題解決型の 3 つのアプローチがある。 ➢ IT 屋はデータがあればなんでもできるように思うが、雨量や風速を時間の断面でデジタルで見ただけでは不十分で、気象データは連続した現象としてアナログで見ることが必要。 ➢ 以前、IT 関係の資格を考えた際には、社内研修資料を持ち寄ってもらって検討した。 ➢ IT 企業でも、各社データサイエンティストの研修は色々ある。 ➢ 学生にとって将来が広がる資格と感じられるような観点も必要かと思う。 ➢ 今の時代は、顧客の要求の変化が速いので、ビジネスコーディネーターの色が強くあると良い。 ➢ アナリストとコーディネーターはキャリアパスではなく、パラレルな存在かと思う。 ➢ WXBC は楽市楽座。気象データがオープンデータとして何が足りないかを考えていくもの。現在、不足している制度ができることには賛成。 ➢ 気象予報士のように高いレベルは不要だが、気象データの意味を正確に理解することが重要 ➢ 求められる人材としては、ビジネスオリエンテッド、技術オリエンテッドがあり、スキルとしては、ビジネス課題解決力・技術力がそれぞれ簡単・難しいと 4 とおりが想定される。 ➢ 分析するためには、客が持つデータをクレンジングしなければならない。 ➢ アナリストやコーディネーターが何ができるのかを考えるかより、何ができないのかを考える

と考えやすいかと思う。

- 人材育成 WG ではアナリスト、新規気象ビジネス創出 WG ではコーディネーターを検討すべき
- アナリストに関しては試験もあるが、コーディネーターはケースメソッドでの評価となろう
- 基礎的な理解はアナリストもコーディネーターも同じ。一番難しいところは現場に任せていくしかないだろう。
- O×テストができるだけの人材を経済界も求めている。
- ビジネス課題解決力の育成はケースメソッドしかない。MBA もケースメソッドで行っている。
- 課題を見つけられることが大事。ビジネス活用事例集は、課題をどのように見つけたのかという観点で見ると面白い教材。
- ビジネスは分野を超えることが大事なので、アナリストやコーディネーターの業種は絞らない方が良い。
- ビジネスの発想から PoC など、フェーズごとに求められる人材が違うのかと思う。
- 今回の議論や事例集等を参考に、求められる人材のスキルの詳細を次回までに検討して欲しい。

以上